

## 震災から三年 in宮城

広報情報委員会 福田 光宏

去る2月13日、広報情報委員会杉山委員長・広報委員志茂野そしてわたくし福田3名にて宮城県仙台市に日帰り旅行を決行いたしました。建築静岡新年号の特集[宮城県・円滑な復興住宅の建設をめざして]に寄稿して頂いた(一財)宮城県建築住宅センター三部佳英理事長へのお礼とあいさつが目的の旅でありました。

午前6時30分JR掛川駅より新幹線こだまに乗車し静岡駅にてメンバーと合流し一路仙台に向けて出発いたしました。乗り継ぎも良く予定どおりJR仙台駅に午前10時に到着し徒歩にて宮城県建築住宅センター(以後住宅センターと略)に向かいました。道すがら一週間前に降った雪が歩道上にかなり残っており、滑らぬよう転倒しないように注意を払いながらの歩行となりました。午前10時30分住宅センターに到着し、さっそく三部理事長に面会し建築静岡新年号への寄稿文のお礼を委員長から述べ、新年号担当志茂野編集長より編纂された建築静岡新年号と心ばかりの手土産をお渡しして任務を完了し、一同安堵した次第でありました。ところが、三部理事長のご厚意により仙台市周辺部の震災被害のあった沿岸部を視察できるようにと行程を組んで頂いており、一同厚意に甘える事となりました。以下行程順に感想を記載したいと思います。

### (松島海岸)

ところかしこに雪が残っていて雪の松島というものもなかなか情緒のあるものだと感じたところです。六角堂・瑞巖寺(本殿改修中につき正面入り口まで)・円通院(伊達家二代目藩主忠宗の二男光宗の墓所)の順に廻りました。震災の傷跡のようなものは無いように感じました。ただ土産物屋の玄関等に震災時津波が押し寄せた当時の写真が掲示されており、震災当時の被害の名残を残しておりました。

### (岩沼市玉浦西地区防災集団移転地)

震災被災者の移転先として整備が進む宅地造成地です。沿岸部の震災被災地から内陸部への移転の為の事業です。

総事業面積195,530㎡、計画戸数377戸、人口1,504人とのことです。しかし、数カ所の地域からの移転となる為、既存の地域コミュニケーション等の維持が難しいとのこと。誰しも住み慣れた土地を離れて新たな生活基盤を築くには大変なエネ

ギーが必要と考えます。

### (岩沼市「千年希望の丘」公園)

海岸線に震災により発生したガレキ(再生資材)を活用して丘を築造し、また、植樹することで、津波の威力を減衰・分散させるとともに、避難場所や生物多様化の拠点として整備された公園です。視察当日は海岸線ということもあり風が強く非常に寒く、もっと気象状況の良い時に来たいものです。

### (名取市閑上地区震災復興計画)

閑上港を見下ろす日和山神社に到着し本日私たちを案内していただいた住宅センターの上森さんより現地の説明を受けました。何も無いところを指さして「あそこに魚市場がありました」・「こちらに住宅が建っていました」と基礎が残っているだけで語る先には震災前の面影は全くありません。

津波被害の怖さがひしひしと感じられました。さて、閑上地区について復興計画は作成されているようですが、全く手つかずの状況に見えました。居住地に指定されたところについては、地盤高上げとするそうです。予定地には未だ津波の被害を受けた建築物が残っている状況です。一日も早い復旧をお祈りしております。

以上、仙台市訪問に伴い私共3人が案内して頂いた視察先です。視察が終了し午後5時30分に仙台市の住宅センターに到着し、三部理事長より視察先の補足説明を受け、すべての行程を終了しました。お礼に伺ってかえって気を遣わせてしまったのではないかと、一同心苦しい限りでしたが被災地の視察は我々にとって、とても良い経験になったと思います。できれば読者の皆様も機会があれば一度仙台周辺に訪れてみてはいかがでしょうか。日帰りも可能です。

